〈報道関係各位〉

2012 年 11 月 1 日
大塚国際美術館

新作歌舞伎～和と洋のコラボレーション　第四回システィーナ歌舞伎

『主天童子（しゅてんどうじ） Shiro Amakusa』

《取材のご案内》

2012 年 11 月 13 日（火）～15 日（木）6 回公演

謹啓　報道関係の皆さまには日ごろより何かとご高配をいただき、厚く御礼申し上げます。

大塚国際美術館（館長：大塚明彦、所在地：徳島県鳴門市）では、2009 年の『切支丹寺異聞 伽羅紗』、2010 年の『スサノオ susanoo』、2011 年の『GOEMON 石川五右衛門』に引き続き、ヴァティカンのシスティーナ礼拝堂を原寸大に立体再現した「システィーナ・ホール」を舞台とする新作歌舞伎『主天童子 Shiro Amakusa』を、11 月 13～15 日にかけて 6 回公演いたします。

システィーナ歌舞伎は、「和と洋のコラボレーション」「創作による新作歌舞伎」をコンセプトにしています。
今般、初演される『主天童子』は、松竹株式会社の製作により、荘厳な雰囲気を持つ「システィーナ・ホール」に合わせて水口一夫 作・演出、藤間勘十郎 振付により繰り広げる創作劇です。
七草四郎時貞後に主天童子には片岡愛之助、千々石ミゲル（少年使節）／ミゲルの娘横笛には中村壱太郎、原マルチノ（少年使節）／若衆歌舞伎役者又市には中村種之助、中浦ジュリアン（少年使節）／若衆歌舞伎役者与市には上村吉太朗、月本武者之助には坂東薪車、ジュリアンの娘茨後に傾城茨木には上村吉弥が、そして後の千々石ミゲルには津嘉山正種がそれぞれ扮します。
切支丹一揆のカリスマと言われる天草四郎をモデルにした七草四郎時貞が島原の乱を生きのび、たくさんの切支丹の同志を殺戮した権力への復讐に立ち上がるという物語で、激動の時代を生き抜いた若者たちの青春群像と人間の善と悪を描き出します。

今公演では、歌舞伎では大変珍しいイントレと呼ばれる高さ約 3m の櫓（やぐら）（足場）を会場の上手と下手に設置。間口約 19m×奥行約 40m×高さ約 15m というホールに映える、高さを活かしたダイナミックな演出も魅力です。
このたびも、日本の伝統音楽に徳島室内楽団の弦楽四重奏が加わり、地元からの共演が実現しました。また本公演は、地域文化の振興を目指し、第 27 回国民文化祭・とくしま 2012 国文祭成果継承事業として進めています。システィーナ歌舞伎が「文化立県とくしま」の更なる発展のため、歌舞伎ファンはもとより、美術ファンにも広く歌舞伎に親しむ機会となるよう、徳島から新しい文化の創造・発信に取り組みたいと考えています。

以下に当日の概要をご案内します。報道関係の皆様には、お忙しい中恐縮ですが、是非ご取材賜りますよう、心よりお願い申し上げます。　　謹　白

〒772-0053 徳島県鳴門市鳴門町 鳴門公園内　TEL 088-687-3737 FAX 088-687-1117 http://www.o-museum.or.jp

システィーナ歌舞伎『主天童子 Shiro Amakusa』概要

OTSUKA MUSEUM OF ART

◆公演日　30 分前開場、各公演 2 時間半予定

11 月 13 日(火)　【昼　の　部】13:30　【夜　の　部】18:30
11 月 14 日(水)　【昼　の　部】13:30　【夜　の　部】18:30
11 月 15 日(木)　【午 前 の 部】10:30　【午 後 の 部】14:30

◆入場料（美術館入館料・観劇料）　1 公演　450 席

S 席　12,000 円　／　A 席　10,000 円　　※当日券は 500 円増

◆配　役

七草四郎時貞後に主天童子：片岡愛之助
千々石ミゲル（少年使節）／ ミゲルの娘横笛：中村壱太郎
原マルチノ（少年使節）／ 若衆歌舞伎役者 又市：中村種之助
中浦ジュリアン（少年使節）／ 若衆歌舞伎役者 与市：上村吉太朗
月本武者之助：坂東薪車
ジュリアンの娘茨後に傾城茨木：上村吉弥
千々石ミゲル：津嘉山正種

『主天童子』作・演出について（一部抜粋）　水口一夫

主天童子は架空の人物である。おとぎ噺や伝説の酒呑天童子の名を借り、そのエピソードを踏まえてはいるが、実際の関係はない。天正年間に長崎からローマへ旅立った四人の少年使節の子供たちと、天草の乱の一揆軍のカリスマ指導者天草四郎時貞が、当時の彼等を取り巻く社会情勢に抗い、そして挫折の道を辿る物語である。

これまでも、天草四郎や天正少年使節は、システィーナ歌舞伎の構想の中にあった。欲張りな僕は、今回の「主天童子」の中に少年使節、天草四郎を取りこんだ。おかげで三つの世界が混在する作品となった。書きあげるのを苦労したのも自業自得である。

舞台をＴ字形に組み、上下にイントレを設置した。イントレはある時は橋であったり、城壁であったり、さまざまに変化する。イントレの高さが、お客様の目線をあげていただくことになって、壁面の絵を生かそうとの思いもある。

和と洋のコラボレーションが一つのうりになっている。舞台はローマの市街、システィーナ礼拝堂から始まる。今年はミケランジェロがバチカンの礼拝堂に描いた天井画が完成して５００年の記念の年である。それを意識して筆を進めた。音楽もいつも通りに室内楽と歌舞伎音楽、そして、プログレッシブミュージック、それらを使い分けて進行する。

演技はあくまでも歌舞伎がベースとしているが、ゲストの津嘉山さんをはじめ、歌舞伎俳優以外の演技は、それぞれの特色を生かしての芝居をしていただこうと思っている。特に津嘉山さんは、老いたるミゲルの役で御出演を戴くが、歌舞伎の（手負いごと）の長セリフをどう表現されるか、楽しみにしている。

立回りは三場面あるが、歌舞伎の立回り、布を使った立回り、静かな立回りと色を変えてご覧いただくことにしている。今回も前三作同様に、藤間御宗家のとのコンビの作品となった。

〒772-0053 徳島県鳴門市鳴門町 鳴門公園内　TEL 088-687-3737 FAX 088-687-1117 http://www.o-museum.or.jp

あらすじとみどころ

織田信長が本能寺の変で命を落とした同じ年、日本から遠く離れたローマの街に四人の日本人の少年の姿がありました。その名を千々石ミゲル、伊東マンショ、中浦ジュリアン、原マルチノと言いました。切支丹大名に少年使節として派遣された彼らは、荘厳なシスティーナ大聖堂でローマ教皇グレゴリウス十三世に拝謁。絵に心得のあるミゲルは、壁画の美しさに感動し、しばし立ち尽くすのでした・・・。

それから五十年以上が過ぎ、世の趨勢は大きく変わりました。幕府は切支丹弾圧に方針を転換し、肥前の国島原で大規模な切支丹一揆が勃発すると、大軍を派遣して制圧に乗り出します。一揆軍は十六歳の少年七草四郎時貞を総大将に頂き、険阻な原城に立てこもります。四郎のかたわらには同志・茨の姿も。彼女は少年使節中浦ジュリアンの娘でした。幕府の討伐隊を率いる月本武者之助の軍勢が砦を突破してくるなか、茨は京での再会を約束して、四郎を海上に逃がします。

戦いに傷つき流れ着いた島で、四郎は美しい娘横笛に介抱されます。そこで案内された洞窟の聖堂で四郎は目を見張ります。壁にはシスティーナ大聖堂の壁画を模した美しい絵がびっしりと描かれていたのです。横笛に父だと紹介された絵の筆者の男は、自分が半世紀前にローマに派遣された少年使節ミゲルだと明かします。横笛が四郎に恋していることを見てとった父ミゲルは、若い二人の足手まといにならぬよう、老い先短い自らの命を絶つことを密かに決意し、四郎の手を借りて自身に短剣を突き立てるのでした。切支丹復権の明かしとして聖母像を伊東マンショに届けるよう四郎に託すと、ミゲルは息を引き取ります。横笛は泣き崩れ、四郎は数多の切支丹の同志を殺戮した権力への復讐を誓います。ミゲルが放った爆薬で洞窟が崩れ落ちるなか、二人は闇に消えていくのでした。

それから間もなくのこと。都では人さらいが横行しはじめます。犯人は天主ゼウスの名を冠する「主天童子」と名乗る謎の男。男は「茨木」と呼ぶ豪傑の女と行動を共にし、所司代の役人たちを蹴散らしていきます。古の酒呑童子、茨木童子さながらに神出鬼没なその振舞いに、人々は王朝時代の鬼の再来だといって震えあがるのでした。

主天童子となった四郎の真の目的は、そんな人々の想像とは違っていました。洛中の隠れ切支丹の女たちを、役人に捕えられる前に連れ去って匿おうとしていたのです。島原の郭、大江屋をその隠れ場所に使い、傾城茨木を装った茨が店を切り盛りして、世を欺いています。

ところが、太夫道中で茨木太夫を見初めた男が、大江屋に現れてから不穏な空気が…。なんとその人物は、幕府の密命を受けて切支丹詮議を行う月本武者之助でした。武者之助は茨木太夫に疑いを抱き始めます。一方、父ミゲルから預かった聖母像を一刻も早く伊東マンショに届けたい横笛は、四郎の協力者で女歌舞伎一座の若者、又市の案内で、マンショが隠れ住むという寺にやってきます。しかし、そこには恐ろしい罠が待ち受けていたのです・・・。

横笛の姿が見えなくなり、行方を探し回っていた主天童子の前に立ちはだかったのは宿敵、月本武者之助。死んでいった多くの切支丹の同志たちの想いを胸に、主天童子は権力の象徴・武者之助と対峙します。いよいよ雌雄を決するときがやってきました。

酒呑童子伝説に大胆な創作を加え、洋の空間で繰り広げる、システィーナ歌舞伎ならではの新作にどうぞご期待ください。

FAX：088-687-1117
大塚国際美術館　広報担当：坂本 宛

OTSUKA MUSEUM OF ART

システィーナ歌舞伎『主天童子』取材申込書　（FAX：088-687-1117）

◆取材可能な時間　　**※取材をご希望される場合は必ず受付までお越しください。**

- **11 月 12 日（月）19 時過ぎから、初日通り舞台稽古**（道具をそろえて衣裳、鬘を着けて行われる稽古です）
  ※稽古の進捗状況によって時間が遅れ、深夜に及ぶ可能性があります。
- **11 月 13 日（火）公演　昼 の 部【13:30 開演】、夜 の 部【18:30 開演】**
- **11 月 14 日（水）公演　昼 の 部【13:30 開演】、夜 の 部【18:30 開演】**
- **11 月 15 日（木）公演　午前の部【10:30 開演】、午後の部【14:30 開演】**

＊取材される方は、お手数ですが **11 月 11 日（日）** までにご返信いただきますよう、何卒よろしくお願いいたします。
＊なお、撮影位置は先着順とさせていただきます。ご了承くださいませ。
＊いずれも撮影可能です。ただし、公演中はフラッシュ等の使用をご遠慮下さい。
＊取材中は、必ず社名の入った腕章を着用してください。
＊公演中の取材に制限があり、ご不便をお掛けする場合がございますが、ご容赦ください。

□取材する　　□取材しない
□撮影あり【ムービー（　　）台／スチール（　　）台】

貴　社　名			
お　名　前		参加予定人数	名様
ご 連 絡 先		メールアドレス	

・ご取材いただけるところを〇で囲んでください。　※一部ご希望に添えない場合がございます。

11 月 12 日（月）	初日通り舞台稽古（道具をそろえて衣裳、鬘を着けて行われる稽古です）	
11 月 13 日（火）	昼 の 部【13:30】	夜 の 部【18:30】
11 月 14 日（水）	昼 の 部【13:30】	夜 の 部【18:30】
11 月 15 日（木）	午前の部【10:30】	午後の部【14:30】

《本件に関するお問合わせ先》大塚国際美術館 学芸部 広報担当：坂本明子
TEL：088-687-3737　FAX：088-687-1117

大塚国際美術館
OTSUKA MUSEUM OF ART

〒772-0053 徳島県鳴門市鳴門町 鳴門公園内　TEL 088-687-3737 FAX 088-687-1117 http://www.o-museum.or.jp